

# 被服設計のための重症心身障害児の計測

吉良 美緯<sup>1,a)</sup> 吉田 哲也<sup>1</sup>

**概要:** 被服構成学の立場から、重度の肢体不自由・重度の知的障害が重複した状態にある児童と、ケアを担う方々を支援することを目指して、被服設計に必要な身体寸法の計測方法、およびパターン作成に必要な情報を記録する取り組みについて報告する。

**キーワード:** 被服設計, 重症心身障害児, 計測

## Measurement of Children with Severe Motor and Intellectual Disabilities for Clothing Design

MIYOKO KIRA<sup>1,a)</sup> TETSUYA YOSHIDA<sup>1</sup>

**Abstract:** This study was designed to support children with both severe mental retardation and severe limb/trunk dysfunction as well as to their caregivers from the perspectives of clothing construction science. The objective of the study is to develop methods of human body measurement necessary for clothing design and methods of recording information necessary for pattern making.

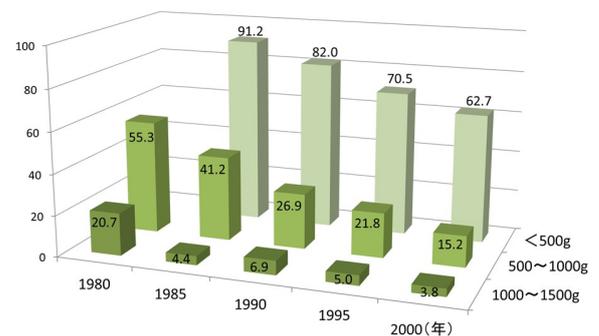
**Keywords:** Clothing Design, Children with Severe Motor and Intellectual Disabilities, Human Body Measurement

### 1. はじめに

近年、周産期医療技術の進歩によって、かつては救命困難であった多くの命が救われるようになり、図1の死亡率の推移に示されるとおり、低出生体重児の救命率が著しく上昇している。500グラム以下の低出生体重児や仮死分娩等、重篤な状況でも救命可能になった一方で、生存児の予後は非常にリスクが高く、高度な医療ケアを必要とする事例が急増している [5]。低体重出生児の死亡率の推移を図1に示す。

重度の肢体不自由・知的障害をあわせもつ重症心身障害児は、日々の生活にさまざまな支援を必要としており、特に衣生活については、着脱の困難さ、衣服のサイズの不適合、着心地や審美性への不満など、多くの問題がありながら、その実態調査や解決に関する研究は、ほとんど着手さ

### 低出生体重児の死亡率



三科潤, 『低出生体重児の長期予後』日本産科婦人科学会誌58(9)2006

図1 低出生体重児の死亡率

Fig. 1 The Mortality Rates of Low Birth-Weight Infants, 1980-2000

れていないのが現状である。

このような背景から、寝衣を製作することによって、難病や重い障害とともに生きる子どもたちの生活を支援し、

<sup>1</sup> 奈良女子大学大学院人間文化研究科  
Graduate School of Humanities and Sciences, Nara Women's University, Nara, 630-8506 Japan  
<sup>a)</sup> oam\_kira@cc.nara-wu.ac.jp

## 研究の目的と流れ



図 2 研究の概要

Fig. 2 An Overview of This Study

ケアを担う方々の負担を軽減することを最終目標として、本研究を計画した。本研究の目的および全体の流れを図 2 に示す。

## 2. 重症心身障害児(者)の概念

### 重症心身障害児(者)とは

重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複し  
さらに常時医療的ケアが必要な児・者

日本独特の  
福祉的・行政的  
概念

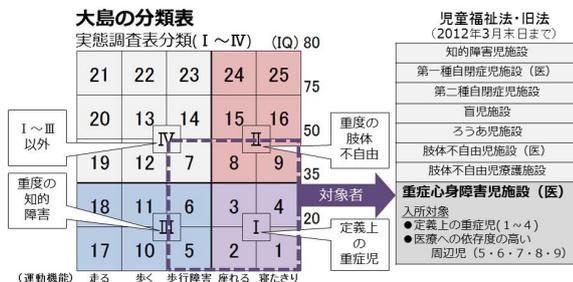


図 3 重症心身障害児(者)の概念

Fig. 3 An Overview of Children (People) with Severe Motor and Intellectual Disabilities (SMID)

わが国では、重度の肢体不自由・重度の知的障害が重複した状態にある児童、および成人した大人を、それぞれ『重症心身障害児』『重症心身障害者』と定め、児童福祉の行政上の措置をおこなうための定義としている。

(以下：『重症児』)

これは、医学的な診断名ではなく、社会福祉的な必要性から生まれた概念であり、知能指数と運動機能から 25 段階に区分した図 3 の「大島の分類」 [1] は、福祉施設の入所対象者の判定に用いられている [3]。重症児(者)の概念を図 3 に示す。

## 3. 研究の概要

図 2 に示した各ステップについて説明する。

### 3.1 要望の調査・問題の把握

医療型障害児入所施設『東大寺福祉療育病院』の職員、および在宅ケアをおこなっているご家族から、被服に関する要望を聞き取る。

### 3.2 身体寸法の計測

重症児の年齢・病状・障害の程度によって異なる体型・サイズ等を把握するために、被服設計に必要な身体寸法を計測する。

(対象：保護者の同意が得られ、健康状態が比較的安定している重症児 20～30 名)

### 3.3 寝衣の試作

計測結果を反映する寝衣のパターン(型紙)を作成し、シーチングで試作衣を試作する。

### 3.4 試着・評価

試着によりサイズの適合性・着脱動作を確認し、職員のご意見を構造・ゆとり量に反映させる。(対象：保護者の同意が得られ、健康状態が安定している重症児 2～3 名)

修正したパターンを用いて、色違いの寝衣を 1 人につき 3 点作成し、その中から各自に毎日 1 つ選んでいただき、着替えから朝までの様子を観察・記録する。生活の観察・記録は、寝衣完成の前後にそれぞれ 10～14 日間おこない、手作りの寝衣の選択・着用の効果について検討する。

## 4. 計測方法・計測項目

計測項目は、『子供服』服飾造形講座⑧ 文化服装学院



謝辞 本研究のために、東大寺福祉療育病院・院長・富和清隆先生、医局の先生方、病院の職員の皆様、入所・通所中の皆様および保護者の皆様に、多大なるご協力をいただきました。ご指導・ご協力に深く感謝申し上げます。

#### 参考文献

- [1] 朝倉次男：重症心身障害児のトータルケア新しい発達支援の方向性を求めて，へるす出版 (2006).
- [2] 文化服装学院（編）：子供服 文化ファッション大系 服飾造形講座 ⑧，文化出版局 (2007).
- [3] 江草安彦（編）：重症心身障害療育マニュアル 第2版，医歯薬出版 (2007).
- [4] 東京都心身障害者福祉センター（編）：最重度級重複障害幼児の家庭指導，全国心身障害児福祉財団 (1977).
- [5] 三科 潤：低出生体重児の長期予後，日本産科婦人科学会誌， Vol. 58, No. 9, pp. 127-131 (2006).